

第1章 令和3年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53(1978)年設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる社会教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回程度の資料展示を行うこと、刊行物やホームページなど各種メディアを通じて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、社会教育活動としては、講座やワークショップの開催、授業や講演会等への講師派遣、公立博物館との連携事業の開催など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

令和元年度から続く新型コロナウイルスの影響により、令和3年度の資料展示活動は、同時入館人数規制や手指消毒の徹底、マスクの着用など、諸制限のもと行うこととなったが、企画展2回のほか、山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展、第8回山口大学学術資産継承事業成果展を開催した。また、本学学術資産継承事業委員会が山口県立山口博物館にて開催した『宝山の一角 山大コレクション in 山博 ー山口大学学術資産継承事業成果展ー』にも出展協力した。

社会教育活動では、山口県立山口博物館との連携で継続的に実施している講座「古代ワーク」を、県東部の平生町を対象地として実施した。

当年度は、令和2年度末から令和3年度前半に開催が予定されていた山口大学学術資産継承事業成果展が、新型コロナウイルス第3波の影響で急きょ中止となったことや、入館に諸制限を設けたこと、学外広報を控えたことなどが影響し、総入館者数は545名に止まった(表2)。前年度比では359%の増加となるが、コロナ禍前の入館者数に比するとおよそ1/4にまで減少している(表1)。

次頁より、当該年度に実施した展示・情報公開活動と社会教育活動の詳細を報告する。

表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移

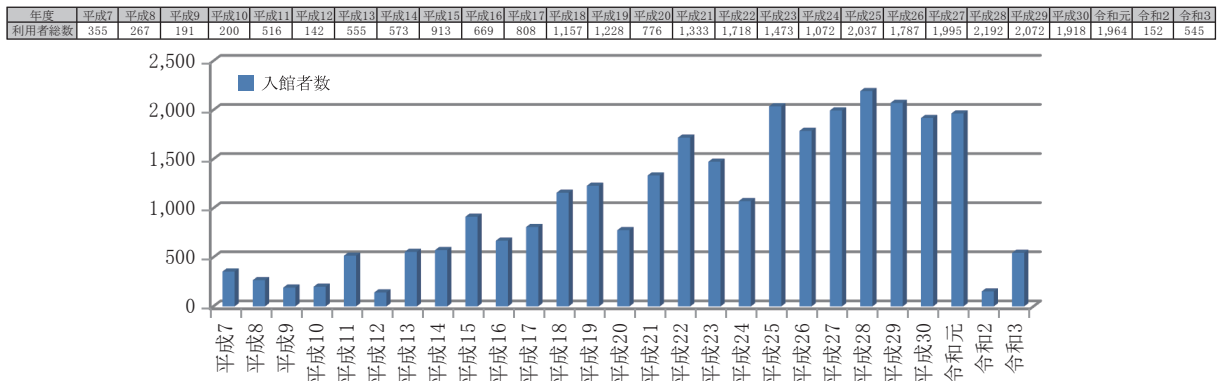


表2 令和3年度月別入館者数

